

令和5年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校自己評価表

令和5年度、本校は以下のような目標・方策をもとに、教育活動を実施しました。

※評価はA・B・C・Dの4段階

A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

教育目標	カトリック精神を基盤とする幼きイエズス修道会の教育理念に基づき、生徒の全人格的開発を目指す。 一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして、自己形成を図ると共に、女性としての豊かな心をもって、社会の建設に貢献する人間を育成する。	総合評価
年度目標	1 一人ひとりの進路実現 2 グローバル人材の育成 3 規律ある生活態度の育成	B

	具体的目標	具体的方策	評価				総合評価
			1	2	年間		
宗教部	校内の宗教的環境の整備の徹底	教室掲示標語「月の言葉」	B	B	B	B	A
		聖堂の管理と学校内の宗教的環境作り	B	B	A		
		昼休み後、5分の黙想の習慣化	A	A	A		
	宗教行事（聖母祭、新入生ミサ、学院慰霊祭、点灯式、クリスマスミサ、聖劇、キャロリング、中学3年、高校3年の卒業感謝の集いなど）	行事が元に戻りつつある。聖母祭、学院慰霊祭、クリスマスミサ、聖劇等が全生徒でできるかの確認をし、準備を早めにする。クラス全体で参加できる「アドベントコンテスト」の準備も早めに生徒に伝え準備期間を十分にとる。また、後援会にアドベントの表彰等を願いし協力していただく。どの行事も生徒主体に重点をおき、積極的に行事に参加するよう宗教委員長、宗教委員を中心に行事を進めていく。	B	B	A	A	
学校全体で支援している、チャイルドファンドジャパンの2人の里子への募金。また、ウクライナ、国内での災害等に対する支援金	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に向けての募金活動、トラピストクッキー販売の収益金での募金集めチャイルドファンドジャパンの2人の里子支援。 ・ウクライナの子ども達、国内の災害等への支援 	A	B	A	A		

教務部	新教育課程導入2年目の円滑な運用実現	教科書選択の混乱防止	B	B	B	B	C
		選択授業の選択ミス防止	B	B	B		
		観点別評価の適正評価	B	B	B		
	教務支援システムの正常な運用	年度更新に関わる作業	C	/	C	C	
		年度当初の簡単マニュアルの配付	C	C	C		
		システム上では不可能な箇所の対策	C	C	C		
	普通科グローバルコースの導入に向けての整備	教育課程の編成	C	C	C	C	
		学校設定科目の精選と活動内容の概要策定	C	C	C		
		適正な評価の方法	C	C	C		
	入学式・卒業式の通常実施	入学式	B	/	B	B	
		卒業式	/	/	B		
	生徒指導部	規律ある生活の徹底	制服、髪型など身だしなみの徹底	B	B	B	
挨拶などの徹底			B	B	B		
定期的な生活検査と、事後指導の徹底			A	A	A		
全校朝礼・終礼、または放送などによる生活全般における諸注意			A	A	A		
いじめの防止		毎学期のイジメアンケート	A	A	A	A	
		イジメアンケートの結果による早期の対応(学校全体の取り組み)	A	A	A		
		全校朝礼・終礼、または放送などによるイジメ防止の啓発	A	A	A		
交通事故の防止		日頃からの交通指導の徹底(歩行・自転車などのマナー)	A	A	A	A	
		警察からの情報を適宜、生徒へ知らせる	A	A	A		
防災意識を高める		日頃からの防災に対する意識付けの徹底	C	B	A	A	
		定期的な避難訓練の実施(2学期)	・	A	・		

進路指導部	体系的な進路指導の推進	受験対策としての課外及び高校3年生（共通テスト対策・個別試験）対策授業を継続して実施する。	B	A	A	B	B
		校外模試・小論文指導・面接指導を企画・立案し実施する。	B	A	B		
		2023年度大学入試情報収集と分析による、高3進路検討会、及び高1, 2模試分析会の実施。	B	B	A		
		大学説明会・職業講話・進路講演会などを計画・実施し、生徒の進路目標が明確になるように努める。	A	B	B		
	進路実現に向けての+αの学習や校外活動参加の促進	受験校決定や教職員間の情報共有のため学年団との会議を定期的に行う。	A	B	B	B	
		第一志望を大切にする進路指導（面談週間・文理分け説明会等）	A	A	A		
		大学入試改革に向け、学内外での活動を活動履歴（プロセス・気づき・振り返り）にまとめる。	B	B	B		
		学習に対する意識を高めるため、毎日の学習時間を（CHALLENGE CHANGE）に記録させ、1週間ごとに提出させる。※特進コース	B	B	B		
		九州大学の魅力を伝えるために、高校1年生での九州大学訪問。	/	A	/		
	生徒・保護者に対する進路情報の積極的提供	進学資料（1号・2号）・進路速報などを作成し、生徒・保護者に向けて進路に関する様々な情報を迅速に伝える。	A	B	B	B	
		進学資金講演会、保護者向け文理分け説明会、大学入試改革説明会等を実施する。	A	A	C		

広報部	適切な役割分担と組織運営	年度の実態に応じ、課題確認と業務の改善に努める。	B	B	B	B	B
		校務全体の円滑な推進のため、職員間の密な連携を図る。	B	B	B		
		業務記録、資料保存に努める。	A	A	A		
	校内での進路や行事に対する取り組みを積極的に広報活動に活用し、志願者層の質と量の確保に努める。	学校案内、ポスター、チラシ、広告（新聞、雑誌等）、インターネットなど様々な媒体を通じた広報活動の充実と各中学校・塾に対するきめ細かい対応を心掛ける。	A	A	A	B	
		各科コースの活動内容、実績、特色について、より具体的に明示し、志願者増（特に専願）へつなげる。	B	A	B		
		中学校・塾・個人宛の郵送物は計画的に準備し、迅速に対応することを心掛ける。	B	B	B		
研修部	研修体制の確立と実践	生徒の実態や自校の教育課題をふまえ、全教職員による校内研修会を行う。	B	C	C	C	
		授業研修を充実させ、見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る。	C	C	C		
		校外での研修を受ける体制を整え、全教職員が積極的に校内研修に参加し、自己の成長を促す。	C	C	C		

普通科特進コース	学習時間を十分に確保できる生活習慣の確立	学習記録の記入・提出をさせ、学習状況をふりかえらせる。	A	A	A	B	B
		生活・学習改善が必要な生徒には、助言・支援を行う。	B	B	B		
		短・中・長期目標を設定させ、達成に向け計画を立てさせる。	B	A	B		
	大学受験に対応できる学力の育成	予習、復習の徹底。授業の充実。授業内容に関する教科内などでの検証を行う。	B	B	B	B	
		課外の充実。個々に応じた添削指導。必要に応じて適宜補習を行う。	B	A	A		
		外部模試を活用した学力分析を行い、教科のバランスを確認し弱点对策を早めに行う。	A	A	B		
		共通テストを全員が受験する。	/	/	A		
	自分らしい社会貢献の模索	適宜二者面談を行い、教育相談等を通して、生徒の生き方を共に考える。	A	A	A	A	
		「総合の探究の時間」の充実。探究活動を通して、様々な事象に対する生徒の興味関心を深める。	A	A	A		
		活動の記録ノートの記入を通して、3年間の進路の流れを考えさせる。	B	B	A		
		ボランティア活動への積極的な参加を通して、社会が抱える問題に目を向けさせる。また、幅広い分野から外部講師を招き、進路講演を行う。	B	A	A		
	国公立大学、難関私立大学への合格実績	九州大学以上合格者 2名以上	/	/	C	C	
		熊本大学合格者 10名以上	/	/	C		
		国公立大学合格者 20名以上	/	/	C		

普通科普通コース	1. 落ち着いた学校生活 基本的な生活習慣を身につける。	挨拶の徹底。服装・髪型をきちんとする。	C	B	B	B	B
		教室の整理整頓。	B	B	B		
		遅刻・欠席者を減らす。（遅刻者カード活用）	B	A	B		
		保護者との連絡を密にする。	A	A	A		
	2. 基礎学力の定着と向上 自主的な学習習慣を身につける。	1年次英語、数学の習熟度別クラス編成。	A	A	A	B	
		授業に集中させる。	B	B	B		
		課題等提出物の徹底。	B	B	B		
		個別の指導の充実。	B	A	A		
	3. 生徒の個性を見極め、上級学校への進学を目指した進路指導。	1年次、大学や職業についての調べ学習と発表。（2学期～）	—	A	A	A	
		2年次、小論文対策。本校での大学説明会（進路部主催）	B	A	A		
		英検、GTECなどの検定試験推奨と対策。オンライン英会話の導入。	B	A	A		
		受験に対する生徒・保護者向け説明会（文理分け含む）	A	A	A		
	4. 生徒会活動、ボランティア活動、部活動への積極的な取り組み。	生徒会活動への積極的な参加。	A	A	A	A	
		ボランティア活動への積極的な参加。	A	A	A		

情報ビジネス科	4つの凡事徹底	気持ちのよい挨拶と返事	B	B	A	B	B
		遅刻・欠席をしない	C	C	B		
		提出期限と手続き厳守	C	C	B		
		時間厳守と5分前行動	A	B	B		
	コミュニケーション能力の育成	相手の話をきちんと聞く	A	A	A	B	
		わかりやすく伝える	B	A	B		
		他の人に働きかける	B	B	B		
	基礎学力の向上	生活時間の把握と検証	B	B	B	A	
		課題や提出物の精度を高める	B	B	A		
	進路実現の手立て	進学指導	B	A	A	A	
		就職指導	A	A	A		
		保護者向け情報発信	A	A	A		
高校1学年	1 主体的な学習態度	予習復習の習慣化	B	B	B	B	
		課題の精度と提出	B	A	A		
		授業への意欲的な取り組み	B	B	B		
		進路目標の明確化	B	B	B		
	2 目標をもった学校生活	無遅刻無欠席	B	B	C	B	
		清掃	B	A	A		
		係・委員の仕事の徹底	A	A	A		
	3 ボランティアへの積極的参加	協力と協働の意識	B	A	A	A	
		計画性	B	A	A		
		責任感のある言動	B	B	A		

高校2学年	主体的な学習態度	予習・復習の習慣化	B	B	B	B	A
		課題の精度を高め提出を厳守する	B	B	A		
		授業への意欲的な取り組み	A	B	B		
		自分の進路に向けた着実な取り組み	A	A	A		
	目標をもった学校生活	無遅刻無欠席	B	B	B	A	
		清掃の徹底	B	A	A		
		係・委員の仕事の徹底	A	A	A		
		生徒会への積極的参加	A	A	A		
	ボランティアへの積極的参加	協調と協働の意識	/	A	A	A	
		計画性；主体性	/	B	A		
責任感のある言動		/	B	B			
高校3学年	環境整備	教室美化、整理整頓を徹底し、環境整備に努める	B	A	A	B	B
		朝礼、終礼、授業前後 声を出した挨拶の励行	B	A	B		
	基礎学力の定着	担任と授業担当者で情報を共有し、効果的に学習指導を行う	B	A	A	A	
		定期考査、模擬試験後など、担任と生徒の二者面談を適宜実施する	B	A	A		
	進路指導 キャリア教育	進学、就職に関する情報を発信し、生徒の意識を高める	A	A	A	A	
		資格取得、検定合格へ向けて、担任と担当教師が情報共有して積極的に生徒へはたらきかける	B	A	A		
	その他	学年通信を定期的に発行し、保護者へ情報を発信する	A	A	A	B	
		活動の記録ノートを活用する	B	B	B		

中学校	基本的な生活習慣の確立	毎日元気に登校するために、規律ある生活を意識させる。	B	B	B	B
		挨拶、清掃、時間厳守、授業集中の重点項目の指導の徹底	B	B	B	
		面談、スコラ手帳、一週間のふり返しシートなどを活用し、生活指導の充実を図る。	B	B	B	
	基礎力充実に重点を置いた教科指導	授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びを習慣化させる。	B	A	A	A
		課外授業の充実	A	A	A	
		ICTを活用した授業支援のための環境整備	B	B	B	
	日常生活、行事、ボランティア活動を通じての人間形成	朝終礼での祈りや授業前の黙想を通して、自己と向き合うことを習慣化させる。	A	A	A	A
		宗教行事、ロザリオの祈りを通じて、祈る心を養う。	A	A	A	
		全校で地域清掃ボランティア等に取り組む。	A	A	B	
	生徒会活動を通じての自主性の養成	常任委員会活動の活性化	B	B	B	B
		生徒会が企画する活動が、生徒の主体性や統率力、協調性を育む場になるよう、支援的な指導を行う。	B	B	B	
	総合学習を通じての国際文化理解と円滑な人間関係を図る	野外活動や学習発表会を通して、自他のつながりの大切さを知りよりよく成長する場になるよう、支援的な指導を行う。	B	A	B	B
総合学習の授業では、諸外国の文化や習慣を尊重し、理解することを主眼にし、異文化理解力の向上を図る。		B	A	B		

B

保健室	基本的な生活習慣の定着	体調不良の原因・改善方法の追及ために生徒と共に考える。	B	B	B	B	B
		担任と情報交換をし、教室・家庭での生徒の様子を把握する。	B	C	B		
		ほけんだよりで生活習慣について情報を発信する。	B	B	C		
	円滑な定期健康診断の実施・事後措置	学校医・学校歯科医・関係機関等との打合せを密に行う。	A	—	A	B	
		実施方法を教職員へ周知する。服装の準備や検診方法などは、保健委員を通じてクラスへ連絡を依頼する。	A	—	A		
		実施後、検診結果を速やかに通知し、受診が必要な生徒へは受診を促す。	C	—	C		
		心臓病・腎臓病等で定期受診中の生徒へは引き続き受診を促し、受診結果の提出を求める。	B	B	B		
	個別支援の充実	担任との情報交換を元に、連携し対応を行う。	B	B	B	B	
		配慮が必要な生徒は、関係職員へ情報共有する。	B	B	B		
		必要に応じてSC・SSWへつなぐ。	A	A	A		
		校内支援委員会を月に1回、開催する。	B	A	A		

令和5年度 熊本信愛女学院中学高等学校 学校評価

◎学校生活について、生徒及び保護者へのアンケート結果

①非常にそう思う	②だいたいそう思う	③あまりそう思わない	④全くそう思わない
----------	-----------	------------	-----------

※生徒による評価	①	②	③	④
1 熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活で生かされている。	59.1%		30.9%	
2 礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。	83.4%		12.0%	
3 落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。	84.0%		13.6%	
4 体育祭・文化祭・修学旅行・クリスマス祭等、行事が盛り上がる。	82.8%		15.6%	
5 それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。	77.4%		14.8%	
6 熊本信愛女学院に入学して良かった。	71.1%		23.2%	

※保護者による評価	①	②	③	④
1 熊本信愛女学院で学ぶカトリック精神が、日々の生活からうかがえる。	66.9%		24.9%	
2 礼儀やマナーを重んじる教育が行われている。	90.3%		6.0%	
3 落ち着き、集中して授業に取り組める環境である。	86.4%		7.8%	
4 体育祭・文化祭・修学旅行・クラスマッチ・クリスマス祭等、行事が充実している。	88.9%		10.1%	
5 それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・指導が行われている。	75.1%		18.1%	
6 熊本信愛女学院に入学させて良かった。	84.6%		11.3%	

令和5年度 学校評価アンケート分析

令和5年度も、「礼儀やマナーを重んじる教育が行われている」「落ち着き、集中して授業に取り組める環境である」の評価は生徒、保護者ともに高い。「挨拶」「朝夕の祈り」「正門出入りの一礼」「整理整頓」「思いやり」の日々の小さな実践は、大きなことに挑戦するための人間力の基礎となっている。また、「行事が盛り上がる・充実している」の項目についても、評価が高かった。新型コロナウイルス感染症が5類への引き下げ以降、体育祭、文化祭、修学旅行、クリスマス祭等の行事は、学校全体がひとつになり、生徒たちの互いの力を伸ばし合う切磋琢磨する場となった。今後もこれらの教育活動を基盤として、「それぞれの学年で将来を見据えた進路学習・進路指導」を効果的に実施して、生徒それぞれの進路保障に力を入れながら、「熊本信愛女学院に入学して良かった・入学させて良かった」の項目が高まるよう努めていきたい。

学校評価委員からの意見

- 色々な行事がやっとならざるようになるようになり、生徒も保護者も満足していることが分かりました。これは、生徒会や後援会の意見が取り入れられ、自主的な活動もできるようになってきているからだと思われまふ。さらに充実させてほしいと思ひます。
- 学校生活についてのアンケート調査で、信愛らしい校風の教へに生徒も保護者も良いと思ひていることは、卒業生として喜ばしいことだと思ひます。また、入学して良かったという評価も、以前より少し高くなつたように思ひます。
- 信愛の学校像として、保護者の信頼にこたへる（礼儀、マナーを重んじる）教育が実施されていることを嬉しく感じました。これからも一人ひとりを大切にする教育が大切だと思ひます。そのためには、教育環境の整備と国際交流、同窓会や地域の信頼と期待にこたへる開かれた学校のイメージも大切かと思ひます。また、そのためには、確かな学力の定着と保護者や地域に向けた情報発信も欠かせません。
- 中学では、外国人による英語教育がなされているので、それをより充実させることも必要であると思ひます。台湾の半導体メーカーが、熊本に進出したのでより国際化が進むものと思ひます。新設のグローバルコースにおいては、中国語等の選択授業を取り入れるのはいかがでしようか。